

進路指導室から 第280号

はじめに

進路指導室から見える広島城周辺は、新緑の季節を迎えました。

さて、現在、本校は休業が続いていますが、本校ホームページに、「MOTO-SITE（基高生 応援サイト）」が設けられています。見ていただければおわかりと思いますが、K先生が作成されたデザインが素晴らしすぎます。また、多くのコンテンツが掲載されています。本校の先生方の生徒に対する「想い」が伺えます。

サイト内のコンテンツについては、残念ながら基町高校関係者しか閲覧することができませんが、「学習の進め方に関するアドバイス」、「教科の内容に関する動画」、「生徒が製作した作品に対する講評」など多岐にわたっています。それぞれのコンテンツに対する閲覧数も表示されています。私も「授業内容の説明」を掲載していますが、閲覧数があまりにも少なくて恥ずかしい限りです。5月10日（日）段階で、もっとも閲覧数が多かったのは、音楽のD先生、M先生による「基高生に贈る音楽演奏」でした。このサイトは、そもそも生徒たちの学習を補うために設けられましたが、生徒たちと学校や先生たちとのつなぐ大切な役割を果たしているような気がしています。

「新型コロナウイルス感染症の影響による2021年度入試」について

新型コロナウイルス感染症は、すでに経済に大きな影を落としつつあります。現在、未曾有の事態の渦中にありますが、景気の低迷期における大学入試は、「リーマン・ショック」と「東日本大震災」の後に経験しています。その際にどのような入試が行われたかについて、旺文社教育情報センターから出されている「今月の視点-161」を参考にまとめました。

□ 背景となる基礎数値

2009年～2014年は、およそ以下の規模で推移しています。

・ 18歳人口 = 120万人 ・ 高卒者数 = 110万人 ・ 大学受験生数 = 60万人台後半

□ 大学志願・進学状況

① 卒業後の進路

2009年～2014年は、大学等への進学率は若干低下し、専門学校への進学率が上昇しました。学費の問題や就職難の中で、「専門学校で手に職」という意識が働いたものと思われます。

② 現役志願率

2009年～2014年は、現役志願率が低下しました。家庭の経済状況から大学進学を断念した受験生がいたことが伺えます。平成に入ってから、大学進学熱の高まりとあわせて、基本的には現役志願率は上がり続けました。経済の悪化は、その勢いを抑え込むほど大きな力でした。

□ 国公立別、入試方式別動向

① 国公立大志向

2009年～2014年は、国公立大志向が強まりました。

② 私立大、推薦・AO入試

安全志向による私立大の併願が増えた結果、私立大志願者数の増加率は国公立大よりも大きかったようです。

2009年～2014年の後半の増加については、震災後の経済状況の悪化から、各私立大で学内併願による受験料割引が急激に拡大したことも大きく関連しています。

一方、推薦・AO入試の志願者は増加しています。ただし、安全志向が強まれば、「早く、安全に」ということでもっと大幅に増えてもよさそうでしたが、当時はそれほどでもなかったようです。公募制推薦は、近畿地区の私立大の募集人数は多かったのですが、首都圏の私立大は必ずしも増えたわけではありませんでした。

なお、最近の私立大志願者の増加は、私立大の定員超過率の厳格化や新しい入試制度を前に、安全志向が強まっているためです。

□ 各年度 入試動向（2009年～2014年の『蛭雪時代』入試分析にみる「安全志向」）

① 2009年 一般入試（リーマン・ショック後）

【国公立大】

- ・ 志願者3%減。 ← センター試験平均点ダウン（国語ダウン、英語大幅ダウン）。
- ・ 難関、準難関敬遠。地方の公立大人気。

【私立大】

- ・ 難関、準難関敬遠。中堅～中堅上位に併願。

② 2010年 一般入試（新型インフルエンザ流行）**【国公立大】**

- ・ 志願者3%増。
- ・ 1ランクダウンの慎重出願。 ← センター試験平均点ダウン（「数ⅠAショック」）。
- ・ 準難関の人気復活、公立大は志願者の大幅増が続出。

【私立大】

- ・ 難関大敬遠。準難関～中堅で競争激化。
- ・ 受験生の併願パターンは、「チャレンジ校[減]—実力相応校[増]—合格確保校[減]」。
- ・ 地方の拠点校で志願者増。
- ・ 特待生制度や受験料の減額などが人気の要因に。

③ 2011年 一般入試（入試終了直前の3月に東日本大震災）**【国公立大】**

- ・ 志願者3%増。 ← センター試験平均点アップ。
- ・ 準難関が軒並み志願者増。公立大は前年の反動で減が目立つ。

【私立大】

- ・ 難関、準難関敬遠、中堅上位さえも敬遠 → 中堅クラスがボリュームゾーンに。
- ・ 併願校絞り込み。実力相応校さえも絞り込みへ。
- ・ 特待生制度や受験料の減額が志望者増に直結。

④ 2012年 一般入試（実質、震災後の最初の入試/センター試験の実施方法変更）**【国公立大】**

- ・ 志願者2%減。 ← センター試験平均点アップも慎重出願。 ← センター試験「地歴・公民」の変更。
- ・ 東北～関東では前年、震災で後期とりやめ。 → 合格ライン高騰。 → 後期敬遠。
- ・ 公立大はここ数年の人気で倍率上がりすぎ。 → 後期断念。

【私立大】

- ・ 中堅校の志願者増が目立つ。中堅理工系は軒並み増。
- ・ 出願校数は減、志願者を受験料割引で学内併願。 → 「低リスク・低コスト出願」。
- ・ 前年の入試結果に敏感。前年の高倍率や高難度は避ける。
- ・ 特待生制度や受験料の減額が人気。

⑤ 2013年 一般入試**【国公立大】**

- ・ 志願者1%減。 ← センター試験平均点大幅ダウン（国語ショック）、慎重出願。
- ・ 「難関～準難関国立→中堅国立→地元国立」にランクダウン。地方公立大が人気。
- ・ 後期をあきらめ、私立大の志願者増。

【私立大】

- ・ 国公立大受験者の私立大の併願増。
- ・ 中堅上位～中堅校が人気。中堅理工系など、理系が爆発的に増。
- ・ 首都圏への流入減。地方の拠点校が志願者増。

⑥ 2014年 一般入試（新課程前の最後の入試）**【国公立大】**

- ・ 志願者1%減。 ← センター試験平均点はややアップだが、国語が難化。
- ・ 翌年新課程入試（数学、理科）。 → 「後がない入試」 → 慎重出願。

【私立大】

- ・ 「後がない入試」 & 「センター試験国語の難化」 → 中堅上位～中堅の併願増。
- ・ Web出願割引の導入校で志願者増が目立つ。

□ 学部系統別 志願状況

① 進路決定率 ※

文系の人文科学系、社会科学系の学部の進路決定率は、2009年～2014年に大きく落ち込みました。「経済状況が悪ければ文系学部の就職難」という言葉を印象づける結果となりました。

※ 進路決定率

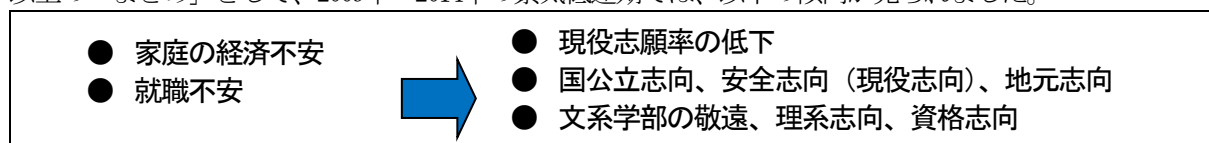
「進路決定率」は、大学卒業生における「就職」または「大学院進学」した者の割合。これら以外は、アルバイト、専門学校、進路未定の者など、単なる就職率では、理工系などの大学院進学者が多い学部系統と比較できないため、ここでは、「進路決定率」を利用しました。

② 学部系統別 志願状況

文系学部の就職難は、大学入試に強く影響しました。人文科学系、社会科学系は減少しています。もともと、経済・経営・商などの志願者動向は、景気に影響されやすく、社会科学系は特に落ち込みました。

これに対して、理系や資格系の学部は急激に志願者を増やしました。就職へ向けて技術や資格を身につけようと考えた受験生が非常に多かったようです。

以上の「まとめ」として、2009年～2014年の景気低迷期では、以下の傾向が見られました。



□ 今回の特異性

今回のケースとリーマンショック、震災のケースにおいては、「新しい入試制度」、「定員超過率の厳格化」、「学習活動の停滞」の3点が異なります。

〔新しい入試制度〕

2021年度入試から大学入学共通テストが導入されます。また、英語のリーディングとリスニングの配点などに大きな変更があります。また、大学入学共通テストは、大学入試センター試験と比べて難化が予想され（大学入学共通テストの想定平均点は約50点）、大学入試センター試験で想定されていた合否ラインがどのように変わるのかわかりません。その結果、「負担増」と「合否ラインがわからない」ことが受験生に何らかの影響を及ぼす可能性があります。

〔定員超過率の厳格化〕

2016年以降の各私立大の合格者絞り込みにより、近年の入試ではすでに安全志向が見られます。2021年度入試は「新しい入試制度」とあいまって、さらに安全志向が見られるかもしれません。リーマン・ショック、震災時には推薦、AO入試は目立った動きはありませんでしたが、今回は違った動きになる可能性があります。

〔学習活動の停滞〕

現在、多くの学校が休業状態にあります。また、模擬試験も資格・検定も受検できていません。そもそも2021年度入試のスケジュールが不透明だけに、受験生にとっては大きな不安につながっていると思われます。

新型コロナウイルス感染症の影響で経済状況の悪化が予想される中、2021年度入試は、より一層、「資格志向」、そして、「安全志向」が進む可能性があります。ただし、「資格志向」、「安全志向」が受験生の将来においてふさわしいかどうかわかりません。一人ひとりの受験生には、興味・適性があります。すべての受験生が資格系の学部に適性があるわけではありません。また、「安全志向」が起これば、結局難易度の高い志望校の競争率が緩和され、合格するチャンスがあるかもしれません。その一方で、これまで合格しやすいと考えられていた大学が難化する可能性があります。現在、社会で何が起きているのかを知ることは大切ですが、情報に追随するのではなく、一人ひとりにとって何が大切かをしっかりと考える必要があると思っています。

終わりに

2021年度入試のスケジュールが気になっています。いろいろな問題が関わっていることから難しい判断だと思いますが、できるだけ早く周知してもらいたいと思っています。

(文責：進路指導部 池本 邦彦)